

平成 30 年度 共同研究報告書

研究区分		一般共同研究
研究課題		リンパ節ストローマ細胞サブセットの分化機構
新規・継続の別		新規・継続
研究代表者	所属	新潟大学 大学院医歯学総合研究科
	職名・氏名	教授・片貝 智哉
研究分担者 (適宜行を追加して下さい)	所属	新潟大学 大学院医歯学総合研究科
	職名・氏名	准教授・竹内 新
	所属	
	職名・氏名	
受け入れ教員	職名・氏名	感染病態分野・澤 新一郎
概要 (100～150 字程度)		リンパ節は適応免疫応答の誘導に関わる中心的な二次リンパ器官であり、独特な組織構造と微小環境が見られる。本研究ではこれまで研究が進んでこなかった間葉系支持細胞（ストローマ細胞）に注目し、ストローマ細胞の分化過程と組織形成機構の解明に取り組む。
研究目的 (300 字程度)		本研究では、リンパ組織のストローマ細胞特異的に機能する複数の遺伝子改変マウスを駆使し、ストローマ細胞の分化過程と組織形成機構の解明に取り組む。具体的には、澤博士が作成した RANKL-Cre と、申請者が保有する Rosa26-stop ^{fllox} -IkBSR、CXCL12 ^{fllox} (大阪大学・長澤丘司博士より供与) と組み合わせ、ストローマ細胞の組織学的解析や IkBSR や CXCL12 の機能解析を目的とする。
研究内容・成果 (1000 字程度)		本共同研究の一環として平成 30 年 4 月 26 日に澤准教授が免疫・医動物学分野でクローズドな研究セミナーを行い、RANKL-Cre マウスを用いたリンパ節ストローマ細胞追跡研究について意見交換を行った。その後、澤博士は RANKL ^{TA/+} マウスを作出し、Tet-OFF システムを利用した RANKL 発現マウスを時期特異的な標識系を確立した。本マウスはリンパ節ストローマ細胞のうち、Marginal Reticular Cell (MRC) を標識するうえで有用であるため、澤准教授らの特許出願（特願 2018-229876）後に共同研究の実行を計画していた。しかし、平成 30 年 12 月 31 日に受け入れ研究者の澤准教授が北海道大学を退職したため、本共同研究は年度途中で終了した。本共同研究内容は、九州大学生体防御医学研究所の澤教授との共同研究としてさらに発展させる予定である。
成果		【学会報告】 なし

	【論文発表】 なし
	【新聞報道】 なし